

■中池見湿地保全活用計画策定委員会【第2回】

[議事録]

日 時：平成 26 年 11 月 12 日（水）13：30～15：45

場 所：敦賀市東郷公民館 1 階ホール

出席者：【委員長】

村上哲生（名古屋女子大学 教授）

【副委員長】

山本博文（福井大学 教育地域科学部 教授）

笹木進（NPO 法人 ウェットランド中池見 事務局）

【委員】

伊原俊治（敦賀市立咸新小学校 校長）

常富 豊（環境省中部地方環境事務所 統括自然保護企画官）

岡本正治（NPO 法人 中池見ねっと 代表理事）

中道五一（泉生産森林組合 組合長理事）

野坂雄二（福井県安全環境部 企画幹（自然環境））

平井規央（大阪府立大学 生命環境科学研究科 准教授）

福田真由子（公益財団法人 日本自然保護協会）

前田凱彦（れいなん森林組合 副組合長）

【事務局】

元山理事、政策推進課 池田課長、観光振興課 奥村学芸員、農林水産振興課 増田主幹・平山係長、教育政策課 北川指導主事、文化振興課 川村課長、環境・廃棄物対策課 田辺課長、宮本課長補佐、西澤係長、高野主査、糸野主事、中池見人と自然のふれあいの里 宮口館長、㈱環境アセスメントセンター 関岡、坂口、佐田

[委員会]

1 委員長あいさつ

- 中池見湿地保全活用計画策定委員会の開催にあたり、村上委員長より以下のあいさつがあった。
 - ・ 今日、委員の皆様には、お集まりいただき、ありがとうございます。
 - ・ 第1回の委員会後に、3回のワーキンググループ開催を経て、中池見湿地の保全活用計画の概要が少しずつまとまってきた。今日は、委員の皆様には、この資料を基に真摯なご意見をいただきたい。また、ワーキンググループでの議論を尊重しつつ、この委員会において、新たな視点でのご意見をいただきたい。
 - ・ 傍聴者の方には、この委員会に来ていただき、ありがとうございます。市民による監視の目が委員会には必要なので、傍聴をよろしくお願ひしたい。

- ・ 事務局の方も資料準備等、ありがとうございます。

2 議事

- ・ 設置要綱（第5条第1項）に従い、委員長が議長となり議事進行した。

【議事1】

- ・ 事務局より、前回議事についての説明があった。
- ・ 議事1について、質疑はなかった。

【議事2】

- ・ 事務局より、ワーキンググループの開催について説明があった。
- ・ 議事2について、質疑はなかった。

【議事3】

- ・ 事務局より、資料に基づき、中池見湿地保全活用計画～構想・基本計画書案～について説明があった。
- ・ 資料3を説明するにあたり、事務局より、以下の説明があった。
 - ・ この構想・基本計画書は、事務局が執筆するのではなく、事務局が骨組み・文章案等を提案し、ワーキンググループで皆様のご意見をいただきつつ、構想・基本計画書案をとりまとめてきた。
 - ・ 資料3の文章の細かな校正は、まだおこなっておらず、誤字脱字がある。これまでは、中身をつくりあげることを進めてきた。文章校正は、構想・基本計画書の内容が固まった段階で実施する予定である。
- ・ 議事3について、以下の質疑応答があった。

[第1～5章について]

- ・ （委員長）多数の参考資料の情報を活かし、構想・基本計画書案としての内容を拡充した。中池見の自然について1～5章にまとめた。何か書き加えること等ご提案いただきたい。
 - ⇒（委員）昆虫類については、現状にあった種を選び、更にチョウ類について加筆した。
 - ⇒（副委員長）哺乳類については、特段追加することはない。
- ・ （委員長）1ページ目の計画策定の目的について、準備会（第13回）でまとめられた文章になっているが、新たに整理された情報もあり、また、保全についての考え方も深まってきたので、今後のワーキンググループでの議論を通じて次の点を拡大して書き足したいと考えている。この場でみなさんのご意見もいただければと思う。
 - *中池見の特殊性・希少さ（他の湿原との違い）

* 中池見の自然のおもしろさ

* 農耕以前、農耕時、農耕放棄以後の各時期に特徴づけられる動植物について

* 中池見の集水域、中池見から流れ出す川、後谷の保全について

* 市民と行政が手を取り合った保全対策について

- (委員) 現状維持のために、地元の方にも協力いただいている。高齢化や後継者の育成が問題であると感じている。今では鳥獣被害も増えている。人がどれだけ手を入れるか、どれくらい手が入っているかは、保全活用と大きく関わるため、保全活動の現状をもっと取り入れてほしい。トイレや作業小屋についても、これからどう取り組むかとりあげていただきたい。
- (委員) 中池見の地図の中に地名(昔からの呼び名)が入っていると、わかりやすくなると思う。地図に地名を入れてはどうか。活用の際には、具体的な地名があるとわかりやすいのではないか。「中池見湿地のトンボ」の冊子には、地名が書いてあったと思う。
“池”は、現時点では、昆虫の多様性の面からは重要な位置づけとなっている。保全に関わりの深いところや池にも名前をつけてはどうか。
- (副委員長) 池は盛土をしたからとなっているが、泥炭湿地の場合、盛土をすると沈むことがしばしばある。長い時間をかけて影響があると思うので、今後の議論が必要かと思う。
⇒ (委員長) ワーキンググループでも、そのような意見は出た。どのように池が広がっているか、具体的なデータ等については、ただ今、調査中だ。
- (委員) 17 ページの植生図は、新しいものがあるので、新しいものを載せていただければと思う。2014年3月の準備会にて配布していた。
⇒ (委員長) ご提供願いたい。
⇒ (委員) 了解。

[第6章について]

- (副委員長) 池を埋め立てる話等、池の問題があるが、泥炭の上に物を載せるのはデリケートであり、注意が必要だ。危ない行為でもある。本当は土砂を取り除くことがよいと思うが、容易に取り除くことはできないし、元にも戻らないと思う。特に建物をつくる時には、要注意だ。
⇒ (委員長) 池は、今後、広がっていくのか。
⇒ (副委員長) どこで安定するかは不明であり、今、安定しているかどうか不明だ。
⇒ (委員) 池は、これからまだ沈むのか。仮設道路を作っているが、仮設道路と池は何か関係はあるのか。
⇒ (副委員長) 土砂等を載せれば確実に沈む。今後、どうするかにもよる。

⇒（委員）仮設道路が、一部沈んでいる。取り除くにはお金がかかるので、すぐにできないと思うが、どうすればよいか。

⇒（副委員長）今後、どの段階で安定するかは、わからない。水準測量をすれば、沈む速度を知ることができる。

⇒（委員長）今からでも水準測量をやるように、委員会として提案してはどうか。データに基づいた行動計画が必要だ。

⇒（委員）中池見の真ん中にある江の脇の道も沈む可能性はあるのか。

⇒（副委員長）100年近く経過して沈んでいないのであれば、大丈夫かもしれないが、ゆっくり沈んでいる可能性はある。

⇒（副委員長）山から定点観察をしているが、沈んでいるように見受けられる。逆に盛り上がっている部分もあり、落ち着いてるとは言えないのではないかと。中池見湿地総合学術報告書に書かれている等、深線（地下の等高線）と重ねて考えていただくと地下の様子が分かり、予測がつくのではないかと思う。仮設道路については、まだ沈むのではないかと思う。山の上（斜め）から見るとよく分かる。空中写真では平面的になり、ゆくりとした変動が掴みにくい。日々の観察が最も大切で、そういった観点でのモニタリングが必要だ。

⇒（委員長）これまでの調査結果を調べつつ、これからどうするのか調べてみたい。

- ・（委員）32ページの目標5に、「60種を越える絶滅危惧種」とあるが、後ろのページの表では、250種あるので現状に合わせた記述としていただきたい。タイプ産地となっているタケダウスゲガムシ、ナカイケミヒメテントウは、目標に入っているが、後ろの保全でフォローされていない。ホシチャバネセセリは大変貴重なものであるが、平成24年のワークショップの際にも確認いただいたが、これはなかったと聞いた。本当はないかもしれない。再度、確認いただきたい。

- ・（副委員長）リストには、中池見には分布していないものが含まれている。

⇒（委員長）事務局にも調べてもらうが、各専門において確認いただき、委員からも文書で提出いただきたい。

- ・（委員）保全の基本方針に、「多様な主体の協働」とあるが、中池見湿地がラムサール条約登録湿地であること等について、市民の認識が足りないところがある。どのように市民にアピールするか具体的に考えなければならないと思う。

- ・（委員）本校は田んぼの学校のかわりに、後谷で田んぼの活用をしている。本校でも現地に歩いて行くには遠く、行きにくい。バスで行くとなるとお金もかかる。他校から中池見に来るのは、もっと難しいのではないかと。中池見の近くにいる子どもたちでも中池見に行くと、とても喜ぶ。他校の子どもたちも、きっと喜ぶと思う。中池見へ行く手段等をうまく運用できると良いのではないかと。

[第7章について]

- ・（委員）57ページに示されているゾーニングが、中池見にとってベストの balan

スカどうかわからない。高茎草原の中に水田環境があることになっているが、どう
いうことか。

⇒（事務局）現在は高茎草本が優勢しているが、ワーキンググループの中で、この
部分はミズトラノオの再生の取組がされていたり、水田雑草のポテンシャルの高
いところなので、目標として入れてはどうかと意見があり、それを反映している。

- ・（委員）57 ページの図を見て、池のほかは、ほとんどが高茎草原となっており、
「これが湿地なのか？」と思う。もっと細かい区分が必要ではないか。ナカイケミ
ヒメテントウを発見した岸本先生と話をしたが、現状では、高茎草本が多すぎてナ
カイケミヒメテントウが生息できる環境ではないとのことだった。この図は、あま
りにも高茎草原が広すぎるイメージだ。

- ・（委員）高茎草原（ヨシ）が多い。刈り取ったヨシなどが毎年、堆積されることが
考えられるが、それでよいのか。もう少し低茎草原や水田環境があるといいのかな
などを議論すべきではないか。

⇒（委員長）のぞましい環境がどういったものかということはこの委員会でも明確
に出していただきたい。多様な保全目標があげられているが、全ての種を満足さ
せることはできない。ワーキンググループで、このゾーン分けを考えたが、この
図は確定でない。今後、細かいゾーニングについて繰り返し議論することになる。
この図で見ると単一に捉えてしまうが、水環境がどうか、他にどんな草が生える
かなど、実際の保全にあわせたイメージ図を出すなどし、今後の議論を深めたい
と思う。

- ・（委員）60 ページにあるような里山はどう維持するのか。20 ページと 7 ページに
あるような時代には、バイオマスとして里山を伐っていたが、湿地は保たれていた。
周りの里山、集水域の部分、ラムサール湿地の中に含まれている部分については、
もう少し書き込まれていてもいいのではないか。部分的に昔のように手を入れる場
所を残すのか、順番に皆伐するような場所を残していくのかなど、里山の維持につ
いても将来的には考えていかなければならない。

⇒（委員長）集水域を含むことで考えているので、里山、集水域の森林環境につい
ても盛り込んでいきたい。

- ・（委員）森林部分について“里山”と書かれているが、“里山”には水田等も含ま
れるため、“里山”ではなく違う名前“樹林”などにした方がよいのではないか。
8号バイパスと池の間あたりに低茎草原のところがあるが、どういった意味がある
のか。

⇒（事務局）ワーキンググループの中で、池の背後が低茎草原の様相をしており、
希少な植物があることから、将来的にはこれを維持してはどうかという意見があ
り低茎草原としている。

[第 8～9 章について]

- ・（副委員長）58 ページに、水門管理について「水中に生息する動物の移動障害になっている」とあるが何を指しているのか。現状で障害しているとは思えない。現状の水中の動物移動について何を指しているか。
 - ⇒（事務局）ここは表記が誤っている。現状は、障害する状況ではないが、今後、水位を管理する場合などには、動物の移動を障害しないように注意しなければならないということを指している。
 - ⇒（副委員長）例えば、「水位調整のために堰板を入れるような場合には、動物の移動を障害しないように」といった解釈でよいか。
 - ⇒（事務局）そのとおりと考えている。

[全体について]

- ・（委員）獣害についての計画はあるのか。
 - ⇒（委員）「業」に対する被害であれば、明確に「獣害」であり被害額も明らかである。しかし中池見では農業や林業は行われていないので、「業」に対する被害はない。イノシシは地域に元々生息している生物であり、外来生物ではない。このためイノシシによる影響と短絡的に考えることは適切ではなく、イノシシが何にどのような害を与えているのかを明確にする客観的なデータが必要。その上で、イノシシも中池見の生態系の一部であるとの認識のもと、保全すべき対象をどうすれば守れるのかを個別に考えなければならない。一方で、外来生物については、本来そこに生活していなかったものなので、除去することには大きな問題はないと考える。
 - ⇒（委員長）地元の方、ビジターセンターの方もイノシシの食害、アメリカザリガニに関して大きな問題であると考えている。
- ・（委員）多様な主体の参加が大切だ。ラムサール条約登録湿地であること以外に地域特性（地形的特徴など）の点から、一般市民・県民の関心を高めてはどうか。42 ページの活用の実施例に“指導者向け、子供向け、大人向けプログラム・資料の作成”などがあると良いのではないか。
- ・（委員）中池見に隣接する森林組合として、どのように連携を深め、保全していくかを一緒に考えていきたい。昨日も林道の保全に行ってきたが、現状としては、イノシシにより林道の側溝が埋め尽くされていたり、松くい虫によりマツが枯れてきていたりする。中池見周辺の動向については、当組合も関連が深いので、今後も積極的に参加し、組合員にも伝達していきたいと考えている。
- ・（委員長）今日、この場でいただいた意見は、次回のワーキンググループにて、もう一度、議論し、その後、次回の委員会（第3回）にて議論をする流れとなる。何か気づいたことなどあれば、具体的な対策と合わせて文章にて、事務局までお届けいただきたい。報告書は、事務局ではなく、委員が書くことになっている点、よろしくお願ひしたい。

【議事 4】

- 事務局より、ワーキンググループの開催について説明があった。
- 議事 4 について、質疑はなかった。

3 副委員長あいさつ

- 中池見湿地保全活用計画策定委員会の閉会にあたり、山本副委員長、笹木副委員長より以下のあいさつがあった。

(山本副委員長)

- 保全の姿はだいぶ見えてきたが、どうやって人を呼ぶかといった活用のことは、まだまだのような気がする。活用するにあたって、今の状況を壊してはならないので、保全と活用のバランスについての判断は、まだ、これからだと考える。

(笹木副委員長)

- 中池見湿地の状況は、動いていないようで動いている。日々、きっちりとした現状把握が大切だと感じている。今年度最後の委員会が 2 月に予定されており、その後の新幹線のルートが決まることになっており、そこにギャップが生じないか懸念している。次回もよろしく申し上げます。本日は、ありがとうございました。